

目次／テーマ展「縄文いわての環状列石」表紙／エッセイ 被災資料の寄贈を受けて ～東日本大震災被災資料からみえてくる願い～ p.2-3／展覧会案内 テーマ展「縄文いわての環状列石」 p.4-5／事業報告 テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」イチ押し役者総選挙 投票結果／活動コラム 「ハクガン」の描かれた背景幕が教えてくれたもの p.6／事業報告 第80回地質観察会「釜石市に見られる古生界の岩石と化石」／活動レポート 南部鉄器ゴジラ特別展示 p.7／インフォメーション p.8

## テーマ展

じょうもん ストーンサークル  
縄文いわての環状列石

2021年3月23日(火)～5月9日(日)



にしひらな いちいせき  
洋野町「西平内Ⅰ遺跡」環状列石全景(洋野町教育委員会提供)

平成27年度の発掘調査時に撮影したものです。全体としては緩く弧を描き、一部西に望む山々に向けて石の列が真っすぐに延びているのがわかります。次の年に行われた補足調査によって、調査区域外であった北側にこの環状列石が延びていることが明らかとなりました。

## ■エッセイ

## 被災資料の寄贈を受けて ～東日本大震災被災資料からみえてくる願い～

主任専門学芸員 近藤 良子（民俗部門）

## ■被災資料としての時計の寄贈

釜石市只越町で明治時代から続く「三上時計店」を営んでいた三上雅弘氏から、東日本大震災で津波の海水に浸かり動かなくなった置時計を寄贈したいとの連絡を受け、東日本大震災の被災資料として残すため、今年の6月に寄贈していただく運びとなりました。津波の泥をかぶった痕跡や店舗の中を海水にもまれながら付いたキズなども確認でき、この時計が受けた震災の記憶がみてとれました。

三上雅弘氏は、三上時計店の4代目にあたり、昭和8年（1933）3月3日に発生した昭和三陸地震による津波や第二次世界大戦中の昭和20年（1945）7月14日にアメリカ海軍戦艦部隊によって受けた艦砲射撃による火災、昭和35年（1960）のチリ地震による津波など再三の被害にも負けず時計店を営んできた三上家の歴史をずっと聞かされて育ってきたそうです。そんな三上家の苦難の時代を見届けてきた時計だったのです。

## ■東日本大震災での被災



図1 大正8年（1919）の三上時計店

図2 昭和35年（1960）5月24日の様子  
中央建物が三上時計店

釜石市は、相次ぐ津波災害に見舞われ、その度に尊い命が犠牲となりました。津波災害から町を守り、安全な港湾での物流拠点構築するため、昭和53年（1978）から平成21年（2009）3月まで31年の歳月をかけ全長1,960m、世界最大水深（63m）の湾口防波堤が完成しました。しかし、東日本大震災では、一定の減災効果を発揮したものの、大津波の威力によって防波堤は損壊し、被害は市内中心部にまで達しました。人口約4万人（震災前）の都市であった釜石市は、東日本大震災当時、主に津波による被害により全戸数の約30%が被災しました（「内閣府防災情報のページ」HPより）。

## ◆東日本大震災津波の概況◆

発生日時：平成23年3月11日（金）  
14時46分頃  
震央地：三陸沖・牡鹿半島の東南東130km付近  
震源の深さ・規模：24km・マグニチュード9.0  
岩手県の最大震度：震度6弱  
津波の最大波：3月11日15時21分9.3m（※気象庁 釜石港湾合庁の痕跡等から推定した津波の最大波）

## ◆釜石市における被害状況◆

（令和2年7月31日現在）  
死者：994人  
行方不明者：152人  
家屋倒壊数：3,656棟  
痕跡高：両石湾22.6m  
※「岩手の復興の姿」令和2年9月発行 企画・発行岩手県より

震災当日、「強い揺れを感じたらその後には津波がくるからすぐ高台に逃げる」という教訓から、三上氏はすぐさま近くの釜石市役所脇の浜町避難道路を駆

け上がり、高台に避難しました。そこにはすでに100名ほどの市民が避難しており、ここからなすすべもなく津波にのまれる町の様子を見ていたそうです。津波が去ったあと、家族親戚の安否確認を行い、数日後ようやく店舗の様子を見に行くことができましたが、店舗兼自宅の時計店は全壊してしまいました。

図3 津波避難場所「浜町避難道路」  
海拔24mの高台で、明治三陸津波以降、避難場所として使われていました。

図4 震災前の三上時計店



図5 震災後の三上時計店

## ■午後3時20分ー津波到達の時刻ー

店内の片づけをしていると、大きな置時計は津波によって倒れ、扉は壊れ、泥にまみれた状態で見つかりました。三上氏はこの置時計を壊れたままではあったけれど、震災で無事だった妻の実家の納屋に保管することにしました。

図6 震災後の店舗内部  
（図1,2,4,5,6 は三上雅弘氏より提供）図7 約9年間納屋で保管されていた置時計  
（高さ204cm横55cm奥行29cm）

時計の文字盤に目をやると、時刻は午後3時20分を刻んだまま止まっています。地震発生からわずか34分後に押し寄せた津波で海水に浸かり、止まった時刻だと分かりました。

実は、この時計はもう長い間動いていなかったそうです。三上氏の幼い頃の記憶では、店舗の2階に忘れ去られたよう

に置いてあったそうです。なぜか急に思い立って時計を動かそうと思い、ネジ巻式から電池式に交換し、振り子の部分もプラスチックの代替品で修理し、動くようにしたのは2010年5月頃のことでした。大震災の約10か月前に時計を修理したことで奇しくも、津波到達の時刻を刻むことになったのでした。

あの日、午後2時46分の地震発生時には生きていた人たちも、その後に襲来した津波によって犠牲となられた方々が多くいました。この震災での死者の多くが「津波が原因」で亡くなられたのです。津波到達時刻で止まってしまったこの時計は、津波の威力を後世に伝える「災害の証人」の意味を持つものとなりました。



図8 津波到達の時刻を示す時計

## ■復興に向けて

三上氏は、店を継いでからは眼鏡の販売にも力を入れ、老舗の看板を守っていくつもりでした。しかし、東日本大震災で被災した店舗は損傷が激しく、震災後まもなく解体することになってしまいました。三上氏は時計店を再建することを諦めましたが、現在は釜石市で被災者の方々の暮らしをサポートするお仕事をされています。また、震災後の釜石を盛り上げようと、仲間と力を合わせ「釜石はまゆりトライアスロン国際大会」を復活させ、岩手県トライアスロン協会の会長も務めています。

寄贈を受けて三上家の時計は、震災の記憶を伝える資料として新たに命を吹き込まれることになりました。この時計は、三上氏の被災体験とともに、震災を風化させることなく災害への備えや防災意識を高める資料となっていきます。

# ■展覧会案内 テーマ展「縄文いわての環状列石」

会期：特別展示室 令和3年3月23日（火）～5月9日（日） 会場：特別展示室

## はじめに

「調査できるところは、ここだけだね」。そう上司に言われて偶然担当することになったこの遺跡に、まさか環状列石が見つかるとは！その時は全く想像もしませんでした。

この展覧会では、太平洋岸で初めて環状列石が確認された洋野町西平内Ⅰ遺跡の調査成果を中心に、石に関わる岩手の遺跡のいくつかを紹介し、縄文人の精神世界、精神文化を考えます。

## ■環状列石とは

用語としては、環状列石というよりも、「ストーンサークル」の方が聞き馴染みがあるかもしれません。縄文時代の後期から晩期の初め（今から約3,000～4,000年前）にかけて、縄文人が大小の石を円形に巡らせて作り上げた造形物をそう呼んでいます。大きさは、直径30m前後。いかに運び込んだものか、大きな石をメインに丸く並べられます。形は、きれいな円というよりは方形に近かったり、その四隅からメロンのつるのような石の列が伸びていたりします。他には、大小二重の環で構成されるものや、円の中央部に小規模な石の集合体が配置されるものなども見られます。

このストーンサークルは、縄文人の精神文化を表すモニュメント（記念物）とも言われますが、特に北海道と北東北地域に多く存在しています。



図1 洋野町西平内Ⅰ遺跡の全景

## ■北海道・北東北の環状列石

世界遺産登録をめざす「北海道・北東北の縄文遺跡群」の中には、縄文時代の環状列石を有する著名な遺跡が複数あります。青森市小牧野遺跡、弘前市大森勝山遺跡、鹿角市大湯環状列石、北秋田市伊勢堂岱遺跡の4遺跡です。関連資産としては、北海道森町の鷲ノ木遺跡があります。



図2 鹿角市大湯環状列石の屋外復元施設

いずれも縄文時代の成熟した社会の象徴ととらえられる遺跡群であり、例えば使われた石の供給地や石質、その運搬方法や環状列石全体の設計に至るまで、様々な角度からの研究が進められています。その成果は、各遺跡のガイダンス施設などで見学できますので、訪れてみてはいかがでしょうか。

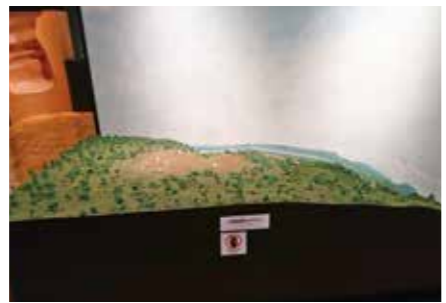


図3 青森市小牧野遺跡のジオラマ

## ■岩手県内の環状列石

さて、県内には環状列石と名の付く遺跡が2つあります。滝沢市にある湯舟沢環状列石、もうひとつは八幡平市の松尾釜石環状列石です。

## <湯舟沢環状列石>

湯舟沢環状列石は、平成25年に県の史跡に指定された、縄文時代後期初め頃の遺跡です。

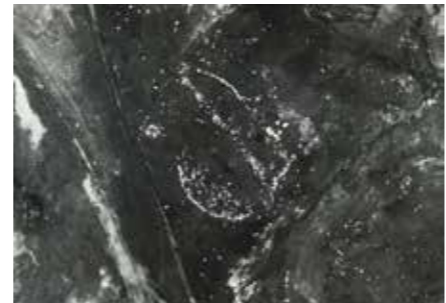


図4 滝沢市湯舟沢環状列石

この遺跡からは、弧状や直線上に延びる石の列のほか、複数の石で囲まれた長方形をなすお墓なども見つかりました。さらに、石を運び込んだ道の跡が確認されるなど、他の遺跡にはない特徴が見られます。

信仰との関わりから、環状列石と周辺の山々とのあり方がよく言われますが、これも例外ではなく、西方には谷地山が聳えています。

## <松尾釜石環状列石>

釜石環状列石は、八幡平市柏台（旧松尾村大字寄木）に所在し、昭和28年に慶應義塾大学文学部民族学・考古学研究室によって発掘調査が行われた縄文時代晩期前葉の遺跡です。当時の調査資料や写真、出土遺物は、平成25年に八幡平市教育委員会に移管され、平成29年度にはそれを記念した企画展も開催されました。

釜石環状列石自体は、最大で直径15mほどと規模が小さめですが、かつての調査時に出土したであろう土偶の下半部と、個人所有の上半部が接合し、遺物の面からも注目される遺跡となっています。



図5 八幡平市釜石環状列石の接合土偶

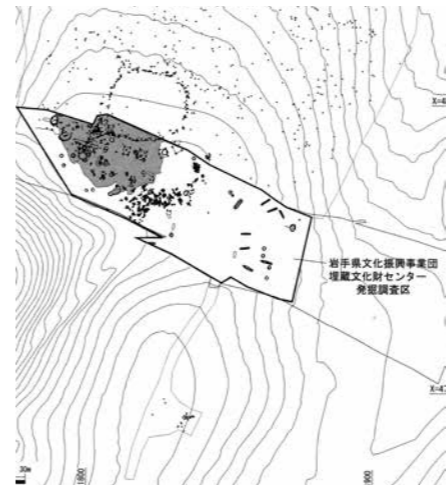


図6 西平内Ⅰ遺跡全体図

## ■西平内Ⅰ遺跡の調査成果

この遺跡は、太平洋岸から西へ約2km、青森県との県境にほど近い丘陵上に立地します。遺跡の西側は、東流する渋谷川に区切られ、遺跡の標高は62m前後、面積は13,000㎡に及びます。

平成26・27年に行われた最初の発掘調査では、縄文時代後期前葉の環状列石と思われる弧状の石列や集石遺構などが確認され、更にそれらを覆う2種類の土壌や、環状列石以前の一般集落の存在も明らかとなりました。これを受けて、地元の洋野町教育委員会は、平成28年度に遺跡北側の未調査部分にハンドボーリング調査を実施し、全体の1/4程度しか確認できていなかった石列は、不整ながら環状をなすことがわかりました。

このような経過から、西平内Ⅰ遺跡は平成30年度に町の史跡に指定され、その後岩手県教育委員会の受託事業として、当館考古部門が洋野町教育委員会と合同で内容確認調査を行っています。今年で2年目を迎えたこの発掘調査では、遺跡範囲の南側に別の礫の広がりがあることが確認されました。

これらの調査成果は、今回新たに製作した遺跡ジオラマとともに報告します。



図7 西平内Ⅰ遺跡の環状列石



図8 西平内Ⅰ遺跡の想像復元図

## ■祭祀に関わる出土品

これまで数回の調査では、祈りの道具であろう土偶をはじめとして、釣鐘のような形をした鐸形土製品や円盤土製品、儀式に使われたと思われる石刀や石剣、石棒などが出土しました。さらに、新潟県糸魚川産のヒスイを素材としたペンダントも出土しており、ここに暮らした人々は、日本海側との交流によって当時の貴重品も手にしていたようです。

数は多くありませんが、このような祭祀に用いられたと思われる遺物が多く見られることは、この遺跡の性格を端的に表しています。



図9 西平内Ⅰ遺跡出土鐸形土製品

## ■石にまつわる岩手の遺跡

北上市にある榊山遺跡は、年代的には湯舟沢環状列石や西平内Ⅰ遺跡よりも少し古い、縄文時代中期の終わりごろの国の指定史跡です。現在は史跡公園として屋外に竪穴住居などとともに復元され、

北上川を望むその眺めは、多くの県民に親しまれています。



図10 北上市榊山遺跡の屋外施設

沿岸部では、弓矢形をした配石遺構が確認された陸前高田市の門前貝塚が有名です。弓矢の先は海側に向いている、と言われています。その他、大船渡市の長谷堂貝塚や大槌町赤浜Ⅱ遺跡などでも配石遺構や護岸状の石積みが確認されています。

## ■今に繋がる縄文人の精神文化

このように、県内でも石に関わる調査事例は増えてはいますが、現状は「謎は深まるばかり」とも言えます。

縄文時代に生きた人々が環状列石に込めた思いは何だったのでしょうか。生と死、おそれ、祈り、希望…。現代までの人と石との密接な関わりの中から見えてくるような気がします。

## おわりに

今回の展覧会では、西平内Ⅰ遺跡調査時のドローン撮影映像の公開や、既述した遺跡ジオラマの展示などを通じて、臨場感のある展示を目指します。是非ご来館ください。

（学芸第三課 濱田 宏）

図1,6～9 洋野町教育委員会提供  
図2,3,10 筆者撮影  
図4 滝沢市教育委員会提供  
図5 八幡平市教育委員会提供

## ■事業報告

## テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」イチ押し役者総選挙 投票結果

会期：令和2年10月3日（土）～11月23日（月・祝） 会場：特別展示室

テーマ展会期中に「イチ押し役者総選挙」を行い、239人の方に投票していただきました。

投票の結果、22票を獲得し第1位に輝いたのは、エントリーNo50水押袂紗人形の「娘」でした。会場でお客様をお見送りしていた人形です。水押袂紗人形（水押人形芝居-北上市）は、明治から大正にかけて使用されたもので、明治以降に行われた県内の人形芝居の中でも古



第1位 No.50「娘」  
北上市立博物館蔵

手の人形です。若々しさとかわいらしさのある、とても魅力的な人形です。第2位は、エントリーNo1で21票獲得しました。この人形



第2位 No.1「馬乗り三番叟」  
細川長治氏蔵

は、雫石町の安庭あやつり人形芝居の人形で、昭和20年代に活躍した人形の一つです。馬乗り三番叟と呼ばれ、舞台清めのために人形芝居の最初の演目として登場する人形です。烏帽子をかぶり、鈴と扇を持ち、松や鶴など吉祥柄が描かれている衣装が特徴です。

第3位は、同率2体が選ばれました。17票獲得したエントリーNo5とNo39です。No5の人形は、鈴江家の淡路人形（盛岡市）の「男」です。江戸時代と考えられる大変古い人形ですが、涼やかな顔立ちに絹の着物の輝きを今も残していま

す。もう一方のNo39の人形は、倉沢人形歌舞伎（花巻市東和町）の「狒々」です。大振りの人形で、豪華な衣装に真っ赤な顔をして歯を見せる迫力ある姿に人気が集まりました。

票はあまり偏ることなく、50人のエントリー人形にそれぞれ割れました。個性派役者たるゆえでしょう。

皆様、投票有難うございました。

（学芸第二課長 木戸口 俊子）



第3位 No.5「男」  
岩手県立博物館蔵



第3位 No.39「狒々」  
倉沢人形歌舞伎保存会蔵

## ■活動コラム

## 「ハクガン」の描かれた背景幕が教えてくれたもの

令和2年度テーマ展「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」から



上の写真は、昨秋の「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」展で展示した北上市立博物館蔵の人形たちです。背景幕も同館蔵のもので、目にもまぶしい金地の中に白い鳥7羽が群れ飛んでいる様子が描かれています。展覧会準備中に、この白い鳥は、体型や首の長さ、翼の先だけが黒いことから雁の仲間の「ハクガン」だと、当館の鳥専門の学芸員から教えられました。



雁は『本草綱目』（江戸時代に伝来した中国の薬学書）によると、「季節や行き帰りの道を間違えない（信）」、「飛ぶ時は秩序をもって飛び、前のものの鳴き声に合わせる（礼）」、「配偶を失うと二度と配偶を持つとしない（節）」、「夜は1羽が見回りし、昼は鳴かないように葦をくわえて矢を避ける（智）」という「四徳」があるとされています。薬として一部狩猟が許されていた鳥ですが、基本肉食が禁じられた江戸時代は、ほとんど捕獲されることもなく、秋になると日本各地にハクガンが渡来し東京湾にも大群が飛来したようです。身近な鳥でもあったハクガンは、吉祥色の「白」も相まって昔から画材として多く描かれてきました。

しかし、明治に入り狩猟が解禁になる

と、白く目立つハクガンは格好の標的となり激減していきます。さらに昭和になり開発による生息環境の変化で絶滅近くまで追いやられてしまいました（幸い、現在は保護により増えているようです）。

展覧会で展示したこの背景幕は、明治から大正にかけて活動した水押人形芝居（北上市口内町）で使用されました。座員自らが作ったと思われるこの背景幕は、ハクガンの群れ飛ぶ姿をまだ見ることができた明治期に描かれたものと推測できます。人形芝居の主役は人形ですが、背景幕のような脇役でも歴史や時代を教えてくれる貴重な資料です。様々な視点から資料を見つめる必要があることに、改めて気づかされた出来事でした。

（学芸第二課長 木戸口 俊子）

## ■事業報告

## 第80回地質観察会「釜石市に見られる古生界の岩石と化石」

開催日：令和2年10月25日（日）

10月25日に釜石市栗林町で第80回となる地質観察会を行いました。今回は同地に分布する古生代のデボン紀・石炭紀・ペルム紀の3つの時代の地層や岩石、化石を観察することを目的として実施しました。なお、本観察会では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、普段より人数制限を厳密にして実施しました。



千丈ヶ滝層観察の様子

砂子畑集会所に集合し開会行事を済ませた後に、観察場所がある大沢川沿いの林道に移動しました。最初の観察地点では、古生代ペルム紀（約3億～2億5000万年前）の地層（栗林層）の観察を行いました。栗林層はペルム紀前期の海の中で堆積した地層で、下部の層準は数cmの大きさの礫を含む礫岩層でできています。この礫岩からはウミユリなどの海の動物の化石を見ることができました。

次に大沢川をさらに上流に移動し、古生代デボン紀（約4億2000万～3億6000万年前）の地層（千丈ヶ滝層）を観察しました。千丈ヶ滝層からはこれまでに日本最古の植物化石と言われる「リンボク（レプトフリーアム）」の化石が見つっています。参加者はそれぞれハン

マーを手に、リンボクの化石を見つけようと一生懸命に石を割っていました。今回の観察会ではリンボク化石を見つけることはできませんでしたが、たくさんの植物の化石を観察することができました。

最後に白い石灰岩が特徴的な石炭紀（約3億6000万～3億年前）の地層（小川層）の観察をしました。石灰岩からは古生代のサンゴの化石を見ることができ、大昔にこの地層が暖かい海の中でできたことが実感できました。

新型コロナウイルス禍の難しい状況ではありましたが、釜石市をはじめとした多くの方の御協力のおかげで無事に観察会を実施することができました。心より感謝申し上げます。

（専門学芸員 望月 貴史）

## ■活動レポート

## 南部鉄器ゴジラ特別展示

会期：令和2年12月19日（土）～令和3年1月17日（日）

令和2年12月19日から翌1月17日まで、当館グラウンドホールにて、南部鉄器ゴジラ特別展示が行われました。皆さんは、ゴジラをご存じでしょうか？これは日本の映画製作会社の東宝が、1954年（昭和29）に公開した特撮怪獣映画『ゴジラ』に登場する兵器によって生み出された身長50メートルもある架空の怪獣です。映画は人気となりシリーズ化され、日本国内だけで30本以上の映画が製作され海外でも上映されました。主な作品では、1962年（昭和37）、アメリカを代表する怪獣キングコングを相手とした「キングコング対ゴジラ」、1964年（昭和39）、同じく東宝が生んだ怪獣モスラと対決した「モスラ対ゴジラ」、1993年（平成5）、ゴジラ生誕40周年記念作

品でメカゴジラが人類の対ゴジラ新兵器として登場した「ゴジラVSメカゴジラ」、最近では2016年（平成28）、自衛隊との一大決戦となった「シン・ゴジラ」などがあります。

また、ゴジラ人気を示すものとして「ゴジラ」と愛称をつけられる人も登場しました。読売ジャイアンツ、ニューヨーク・ヤンキースで活躍した元プロ野球選手の松井秀喜さんが「ゴジラ」、東京ヤクルトスワローズの内川聖一選手は「アゴゴジラ」として有名です。

さて「南部鉄器ゴジラ」は、ゴジラ生誕65周年と第1作に出演した宝田明氏の芸能生活65周年を祝して、宝田氏が総合プロデュースし、奥州市水沢羽田町の南部鉄器製造業及富が、日本の伝統文

化である岩手県の南部鉄器の新しいチャレンジとして、従来の鉄器鑄造とは違った新技術を駆使し製作して完成させたものです。日本鑄造工学会が国内で最も優れた鑄物製品を表彰する本年度のキャストィングス・オブ・ザ・イヤール賞を受賞しました。実用としてはもちろんインテリアとしても楽しめる逸品です。

（主任専門学芸調査員 菅野 誠喜）





# 岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション 〈令和3年3月1日～令和3年6月30日〉

## 新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。

入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認やサーモグラフィーによる体温測定へのご協力をいただいております。

混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。ご利用を楽しみにいただいている皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくをお願いいたします。

最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認くださいませますようお願いいたします。

- ・「体験学習室」は平日のみ利用可能です。なお、団体でのご利用は現在お受けしていません。
- ・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいております。詳しくはお問い合わせください。
- ・幼児～小学生向けのイベント「たいけん教室」は、定員を減らして開催しています。
- ・「チャレンジはくぶつかん」は開館している限り、通常どおり実施します。
- ・団体での入館は午前・午後各100名程度までとし、解説時などはさらに数グループに分かれていただくことがあります。

### ■ 展覧会

#### ● テーマ展「縄文いわての環状列石」

令和3年3月23日(火)～5月9日(日)会場：2階・特別展示室

岩手の環状列石に関わる展示を通じて、縄文時代から現代に通じる人々の信仰や精神文化について考えます。

※詳細は本文p.4-5展覧会案内記事をご覧ください。

◆ 解説会 会場：2階・特別展示室 当日受付 要入館料

各回とも14：30～15：30 ★人数制限あり、当日先着15名

①4月17日(土) ②5月2日(日)

◆ 環状列石模擬体験(ストーンサークル・ゲーム)

令和3年4月18日(日)13：30～16：00 会場：正面玄関付近

#### ● 開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」

令和3年6月12日(土)～8月22日(日)

### ■ ゴールデンウィーク期間のお知らせ

#### ● ゴールデンウィーク中の開館日

4月29日(木)～5月5日(水)は、すべて開館しております。

#### ● ゴールデンウィークイベント

※イベント内容が決まり次第HPでご案内いたします。

### ■ 国際博物館の日

#### ● 入館無料 5月18日(火)

国際博物館の日を記念して5月18日(火)は入館無料となります。

#### ● 国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー(事前申込制)

5月16日(日)事前申込(応募者多数の場合は抽選)※要入館料

国際博物館の日(5月18日)にちなみ、普段は見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申込みください。(各回定員5名)

①自然コース 10：20～11：40(所要時間約80分)

②歴史コース 13：20～14：40(所要時間約80分)

募集期間：4月2日(金)～4月23日(金)必着

応募方法：往復はがきに①参加希望コース②住所③参加者全員の氏名

④電話番号を明記の上、当館「県博バックヤードツアー係」宛てに郵送してください。

### ■ 県博日曜講座

第2・第4日曜日 13：30～15：00 当日受付 聴講無料

★人数制限あり、当日先着50名

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

\*展覧会関連講座

3月14日「南部・岩手の天然染料～藍・紫根・茜を中心に～」

講師：米田 寛(当館学芸員)

3月28日「雑学のススメ」

講師：高橋廣至(当館館長)

\*4月11日「西平内I遺跡の調査でわかったこと」

講師：千田政博氏(洋野町教育委員会)・濱田 宏(当館学芸課長)

\*4月25日「北東北のストーンサークル」

講師：熊谷常正氏(盛岡大学文学部教授)

5月 9日「生命史をひもとく～ジュラ紀～」 講師：望月貴史(当館学芸員)

5月23日「被災資料再生の10年」 講師：丸山浩治(当館学芸員)

6月13日「未定」

6月27日「三陸海岸にサンゴ礁があった！豊かな生物に彩られた1億年前の海」

講師：大路樹生氏(名古屋大学博物館教授)

### ■ 春休みスペシャル ワードパズル&いわての生きものクイズ

展示室をまわりながら、パズルやクイズに挑戦しよう！

3月20日(土)～4月9日(金) 対象：幼児～小学生、予約不要

※開館時間内ならいつでも参加できます。

### ■ 週末の催し

#### ◆ ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13：30～15：00頃 講堂 当日受付 視聴無料

★人数制限あり、当日先着50名

○3月6日 春のアニメ特集(アニメ計62分/幼児～小学生向け)

①一さつのおくりもの(アニメ/12分)

②ねぎぼうすのあさたろう 巻の四(アニメ50分)

○4月3日 春のアニメスペシャル(アニメ/計98分/幼児～小学生向け)

①花いっぱいになあれ(アニメ12分)②ピノキオ(アニメ86分)

○5月1日 ゴールデンウィークアニメ特集

(アニメ/計102分/幼児～小学生向け)

①ぞくぞく村のおばけたち(アニメ/52分)

②ねぎぼうすのあさたろう(アニメ/50分)

○6月5日 世界遺産を知る(実写/計100分/一般向け)

「紅い襷～富岡製糸場物語」

#### ◆ チャレンジ! はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

3月13日・14日・20日・21日 テーマ：わ

4月10日・11日・17日・18日 テーマ：鳥(とり)

5月 8日・ 9日・15日・16日 テーマ：緑(みどり)

6月12日・13日・19日・20日 テーマ：六(ろく)

#### ◆ たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13：00～14：30 幼児(保護者同伴)・小学生5名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料(材料費代/プログラムごとに異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開

館時間(9：30～16：30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。

1度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページで

ご確認ください。

3月	14日 まが玉アクセサリー	5月	2日 土器づくり
	21日 天然石のフォトフレーム		9日 アンモナイトの消しゴムづくり
	28日 手づくり万華鏡		16日 カラフルクモづくり
4月	4日 (おやすみ)	6月	23日 化石のレプリカ
	11日 スライムであそぼう		30日 草花のそめもの
	18日 まが玉アクセサリー		6日 チャグチャグ馬コづくり
	25日 こいのぼりづくり		13日 ばねのキツツキおもちゃ
			20日 手づくり万華鏡
			27日 ウォータードームづくり

### ■ 定時解説

当面の間、休止いたします。

### ■ 利用のご案内

■ 開館時間 9：30～16：30(入館は16：00まで)

■ 休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月27日～1月3日)

■ 入館料 一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料( )内は20名以上の団体割引料金

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は入館料免除となります。

※岩手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※スマートフォンによる障害者手帳アプリ「ミライロID」への対応を開始しました。

岩手県立博物館だより	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214
第168号	発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団
令和3年3月1日発行	〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595